

## 市 政 報 告

最近の市政について報告いたします。

### ○ 新型コロナウイルス感染症対策について

8月25日に、第29回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、今後の対策の方針を協議いたしました。

県内、特に由利本荘保健所管内での急激な感染拡大や、由利組合総合病院が外来診療などを一時停止したことなどを踏まえ、8月27日から9月12日までの間、市主催の会議、集会及びイベント等の原則中止又は延期と、一部を除く市有施設の一般利用を休止することを決定いたしました。

これらの情報は、市ホームページや防災あんしんメールで発信し、各施設でも周知・連絡を行ったほか、市広報9月1日号にチラシを折り込み、広く周知することとしております。市民の皆さまには大変ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

この他、市民の皆さまへのメッセージとして、県外との往来の自粛、感染リスクが高い会食などの自粛、市役所の手続きの電話やオンラインでの対応、そして感染者等に対する誹謗中傷を絶対にしないことなどを、チラシなどで呼びかけることとしております。

### ○ 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

5月から開始したワクチン接種については、総合福祉交流センタースマイルでの集団接種と、医療機関での個別接種により順調に進捗しております。

6月以降の集団接種では、1日当たりの接種人数を増やし、休日は午前・午後ともに実施するなど、来場者の安全を確保しながら、最大限の加速化を図った結果、目標としていた7月末までに65歳以上の高齢者の約75%が2回目接種を完了しております。さらに8月中には約90%が完了し、当初想定した高齢者の接種率を大幅に上回る見込みとなっております。

また、64歳以下の基礎疾患を有する方、保育士、学校関係者、高齢者施設従事者等への優先接種に続き、現在は64歳から55歳までの一般接種や、一定の市内事業所の従業員を対象とした団体接種も実施しております。

そして、9月6日からは、すでに接種券を送付している16歳以上全員と、8月30日に接種券を発送した12歳から15歳までを対象として、予約受付を再開いたします。

このうち、12歳から15歳までについては、接種当日に満12歳に達している方が対象となり、接種には保護者に同伴いただくこととしております。10月以降に12歳に達する方には、誕生日の前月末に接種券を送付し、接種や予約の方法等を個別に通知する予定としております。

これらの情報は、市広報9月1日号の折込チラシや市ホームページでお知らせいたします。そして、これらの計画により、10月下旬までには、希望される皆さまへの2回接種をおおむね実施できるものと見込んでおります。

## ○ 普通交付税について

今年度の普通交付税は、52億953万9千円と算定され、前年度確定額に対し、2,877万1千円、0.55%の減となっております。また、臨時財政対策債は、前年度に比べ9,114万8千円、30.3%増加しており、これらを合わせた実質的な交付額では6,237万7千円の増となっております。

交付額の決定に伴う歳入の補正予算案を今定例会に提出しております。

## ○ ふるさと納税について

今年度のふるさと納税は、7月末時点で件数が9,034件、寄付額は前年同期比で81.2%増の1億3,377万5千円となっており、前年度を上回る伸びを維持しております。

これは、返礼品のバリエーションの充実や、インターネット上のポータルサイトで上位に表示されるようなコンテンツの最適化など、これまでの取組みが着実に成果として反映されたものと分析しております。

今後も寄付者のニーズや時節の傾向などを捉えながら、寄付の増加に取り組んで参ります。

## ○ 市ホームページのリニューアルについて

市では、来年1月の運用開始を目指して、ホームページの全面的なリニューアル作業を行っております。

現在のホームページは運用開始から6年目を迎えており、情報のデジタル化の進展に伴う閲覧環境の変化などへの対応を求められておりました。

今回のリニューアルでは、利用者の使いやすさや見やすさに重点を置いており、本市の魅力を市内外へ効果的に発信できるよう、デザインの刷新によるイメージの向上を図って参ります。

## ○ 「若者100人会議」について

5月31日、20代から40代までの市民や本市出身者などで組織する「にかほ市若者100人会議」を設立いたしました。

設立の目的は、若い世代が市の課題や市民のニーズに対応した事業等を自ら企画・提案し、その実践に主体的に取り組むことで、地域の若者の市政への関心を高め、本市の未来を担う人材を育成しようとするものであります。

8月20日現在、委員は45人（うち公募5人）で、それぞれが4つの部会のいずれかに所属し、自ら設定したテーマについて課題や解決策を話し合っております。今年度は、各部会がまとめた事業企画を市にプレゼンテーション提案し、来年度に提案事業のプロジェクトを実践していただく予定としております。

若者と地域をつなぐ地域活性化の取り組みとして、チャレンジする若い力に大いに期待しております。

## ○ 生理用品の無料配布について

社会的な問題となっている、女性の月経に関する「生理の貧困」への対策として、高校生を含む一般女性を対象に、希望する方へ生理用品を無料で配布いたします。

また、市内の小・中学校においても、学校内での無料配布を実施いたします。

これらにより、困窮する方々の経済的負担の軽減とネグレクトの防止、生活困窮や健康管理の相談支援へとつなぐ取組みを進めるとともに、今後は、性差を理解し合うための講話の実施や情報発信についても検討して参ります。

## ○ 農業の状況について

稲作の状況については、育苗期に高温の日が続いたこともあり、生育はおおむね順調に推移しましたが、田植え作業後は低温・曇天の日が続いたため、活着に若干難儀した圃場も見受けられました。6月には目標とする茎数を確保しながらも、生育は昨年より若干遅れていましたが、7月以降の高温で生育が急速に進み、出穂は例年になく早く、草丈の高い状態であることから倒伏が懸念されております。現在のところ、病害虫の発生は見受けられませんが、高温の日が続いているため、カメムシによる被害が懸念されております。

一方、野菜については、春先は好天が続いたため、施設野菜は順調な生育となりましたが、7月以降の高温乾燥により灌水が不足している路地圃場が多く、収穫量の減少が懸念されております。

また、花きは、7月の高温によりやや開花時期が遅れましたが、その後は順調に推移し、小菊・りんどうの出荷は8月中旬に最盛期を迎えております。

## ○ ツキノワグマの捕獲について

7月以降、クマの目撃情報が多数寄せられ、市内の数箇所に捕獲用の檻を設置していたところ、金浦地域の笹森クリーンセンター付近で7月17日と18日に合わせて2頭を、そして金浦温水路上流の象潟町横岡地内で8月20日に1頭のツキノワグマを捕獲・駆除いたしました。

今年はクマの餌となるブナの実が凶作との見方があり、今後もクマが里山に下りてくる可能性があります。市民への注意喚起を継続するとともに、にかほ幹部交番や消防署、猟友会と連携し、情報提供やパトロール、状況に応じて檻の設置などの対策を講じて参ります。

## ○ 凍上災害による道路災害復旧工事について

栗山池公園脇から中ノ沢方面への約1,000mと、すずらん通りと平沢小出線の交差点から白雪川までの区間約1,600mの市道2路線については、昨冬の低温により、舗装のひび割れが発生しておりました。

これらを凍上災として国に災害申請しておりましたが、8月2日・3日の国の査定を経て、国庫負担の災害復旧事業として採択されております。

同様に県事業として、県道象潟矢島線（象潟地内）と、県道上郷仁賀保線（院内・小出・大竹地内）の約 10 kmの災害復旧事業も採択されております。

市道の復旧に係る補正予算案を今定例会に提出しております。

## ○ 市内の経済状況について

4月から6月の景況調査では、依頼した65社のうち73.8%にあたる48社から回答があり、前年同期と比較して「好転」が21社、「横ばい」が14社、「悪化」が11社と、景況感は徐々に好転しております。

飲食・宿泊業では、「好転」3社に対して「悪化」が4社と、一部では引き続き悪化の状況が続いているものの、全体としては好転しつつあります。

小売・サービス業においても、「好転」が7社、「横ばい」が3社、「悪化」が2社で、前年に比べて景況は好転しております。

また、建設業については、「好転」が3社、「横ばい」が3社、「悪化」が2社で、DI値（好転－悪化）は12.5%となっており、昨年の調査時に見込まれていた新規の受注が実現するなど、当時の予測どおりに業況は好転しております。

主力の製造業は、「好転」が8社、「横ばい」が8社に対し、「悪化」が3社となっております。「取引先からの受注が高止まりし、今後も安定が見込まれる」との声もあるなど好調な企業が多く、一部ではコロナ禍で受注減が続いている企業があるものの、全体としては好転しております。

## ○ 地域の雇用状況について

ハローワーク本荘管内の有効求人倍率は、今年4月末時点では1.0倍を割って0.97倍まで下落しましたが、その後は2か月連続で上昇し、6月末現在では1.14倍と前年同期比で0.14ポイント上昇しております。

また、ハローワーク本荘によると、国の雇用調整助成金が今年9月まで延長されたことにより、全体的に離職の抑制傾向が見られ、助成金の申請数も5月から7月までの前年同期と比較して4割程度減少していることから、製造業を中心に景気は回復傾向にあり、地域における雇用はおおむね維持されているものと見られております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、景気の落ち込みが懸念されることから、今後の雇用状況を引き続き注視して参ります。

## ○ 高校生の就職状況について

来春の高校卒業予定者に対する求人受付が、6月1日からハローワークで開始されております。ハローワーク本荘での受付状況は、6月末現在、求人数が前年同期比で72人増の381人、求人を提出した事業所は20社増の88事業所となっております。

一方、管内の高校卒業予定者のうち就職希望者は、前年比3人減の275人で、就職希望地は県内が23人増の229人、県外は26人減の46人となっており、県内就職希望率が前年に続き上昇傾向にあります。

求人数が就職希望者数を上回るなど、明るい兆しが見えるものの、コロナ禍の影響により、職種による求人者数は大きな偏りが生じており、職業の選択肢が狭まるなどの、就職活動への影響が懸念されております。

## ○ 若者の地元定着に向けた取組みについて

7月26日に、ハローワーク本荘、由利地域振興局、由利本荘市との共催により、由利本荘市のナイスアリーナを会場に、本荘由利管内の高校3年生を対象とした「高卒求人情報説明会」を2年ぶりに開催しました。参加した管内企業56社の人事担当者から、企業や求人に関する情報を得るなど、地元就職を目指す学生にとって貴重な機会となりました。

8月5日には、市内の小学生を対象に「夏休み親子職場見学会」を開催し、小学生の親子9人が市内5事業所を訪問して工場見学を体験しました。

また、10月には由利地域振興局との共催により、地元企業約20社が市内の中学校に出向いて、2年生を対象とした「中学生と管内企業のふれあいPR事業」を実施する予定としております。

今後もコロナ禍における市内企業の人材確保を支援しながら、子どもたちが地元企業を知る機会を創出し、地場産業への理解を促進して参ります。

## ○ にかほ市飲食応援消費還元事業について

市内の参加飲食店において、店内飲食やテイクアウト等を利用することでポイントが貯まり、利用額のおおむね40%相当の商品券に交換できる「おでかけレストラン・おうちでレストラン」を6月1日から実施いたしました。

当初設定した期限よりも早く応募数が上限に達したため、今年 22 日に前倒ししてスタンプ押印を終了しております。スタンプカードの提出期限は 8 月 31 日で、郵送の場合は当日付けの消印があるものを有効としております。

8 月 24 日現在で、スタンプカード 19,405 枚を受け付けており、利用された市民等への還元総額は 5,821 万 5 千円で、参加した飲食店においては、合わせて 1 億 4,553 万円以上の売上げに繋がっております。

### ○ 株式会社プレステージ・インターナショナル新拠点の整備について

今年 3 月に着工した同社の新拠点整備工事については、天候に恵まれ、大きなトラブルもなく地盤改良や基礎の工事が終了し、現在は鉄骨建方と屋根の設置を行っております。8 月末時点の工事進捗率は 33% で、このまま順調に進めば、来年 2 月までに建物工事が完了する見込みとなっております。

8 月末現在で、市内で働く同社の従業員数は 260 人ですが、来年 4 月の新拠点開設時には 300 人に、そして最終的には 500 人にまで増員する計画となっております。特に女性の雇用拡大が期待されており、市では引き続き市民の雇用をお願いすることとしております。

### ○ 子育て世帯の移住促進について

子育て移住世帯に対する住まいの支援として、従来の定住奨励金に加えて、市が空き家を借り上げて整備した 2 棟の移住者支援住宅の貸付や、民間賃貸物件の家賃補助などを実施しております。

今年度に本市に移住した 7 世帯のうち 6 世帯が子育て世帯で、その内の 2 世帯が移住者支援住宅に入居しているため、現在市内の空き家を募集し、新たに 1 棟の整備を進めようとしております。

また、先月 11 日には、「こそだてフリマ P A R K」を開催し、子育て移住世帯と地元の世帯が、フリーマーケットを通じて交流しました。

会場の多目的屋内運動場には 300 人を超える家族連れが来場しましたが、感染症対策を講じながら、フリーマーケットや子どもたちの遊び場としてメインアリーナを活用することができ、スポーツ以外の事業にも有用な施設として、貴重なノウハウと手応えを得ております。

今後は、感染症の状況にもよりますが、首都圏等に住むひとり親世帯を対象

に、本市の生活環境や子育て環境、働き場所などを直接見聞きし、住みよさを体験していただく「ひとり親世帯移住体験ツアー」を年内に開催する予定としております。

### ○ 移住者の起業促進について

新聞等でも紹介されておりますが、市内の空き家等を活用した飲食店の開業や、インキュベーション施設「わくばにかほ」を事業拠点とした若者による起業など、今年に入ってから移住者による起業が活発化しております。

これらについては様々な要因が考えられますが、「住みよさランキング」や「住みたい田舎ベストランキング」での高い評価や、これまで取り組んできた本市の魅力のPR効果が表れているものと捉えております。

今後も、設備投資などの創業費用の一部を補助する「創業チャレンジ補助金」のほか、市商工会との連携や「わくばにかほ」の活用を通じて、移住者の働き方の選択肢として起業を後押しして参ります。

### ○ 「地域活性化起業人」の制度活用について

総務省の「地域活性化起業人」の制度を活用して、本市の観光素材の磨き上げや旅行商品等の企画・造成など、交流人口の拡大に携わっていただくことを目的に、日本航空株式会社（JAL）より石川直雄（いしかわ ただお）氏を派遣いただいております。

石川氏は8月2日の着任以来、にかほ市観光協会を拠点に活動されており、同社秋田支店での勤務経験や独自の情報網などを活用され、本市の観光事業の強化に力添えをいただくことを期待しております。

### ○ アウトドアアクティビティ拠点施設（仮称）の整備計画について

総合アウトドア企業の株式会社モンベルとの包括連携協定に基づき、昨年8月から進めておりました「にかほ市アウトドアランドデザイン（基本構想）」の策定について、このほど同社から提案書が提出されました。

主な内容としては、本市の豊かな自然と地域資源を生かしたアウトドアアクティビティの振興と、それを軸としたエコツーリズムの推進による地域経済の活性化、そして市民の健康寿命の増進という3つの観点から、現地調査に基づ

く提案がなされております。

昨年末にランドデザインの中間報告を受け、アウトドアフィールドの利活用に必要な拠点施設を、道の駅象潟「ねむの丘」のエリアに整備する方向で、基本設計業務を今年4月に発注し、併せてこの拠点施設内への直営店舗（モンベルストア）の誘致を進めて参りました。

このたび、双方の方針が一致し、モンベルの直営店舗を含む「アウトドアアクティビティ拠点施設（仮称）」の実現に協力して取り組む旨の「基本合意書」を今月25日に締結しております。そして、今定例会にこの拠点施設の用地調査測量設計費等に係る補正予算案を提出しております。

現時点での計画では、今後12月定例会に建物の実施設計費に係る補正予算を、そして来年度予算に用地の造成工事費と拠点施設建設費を計上させていただき、令和5年度前半の完成を目指すこととしております。

#### ○ 秋田空港での作品展「木版画家 池田修三の世界」について

秋田空港を美術館に見立てた作品展「木版画家 池田修三の世界」を7月1日から9月29日まで開催しております。

空の玄関口を展示会場とすることで、池田氏とその作品を多くの方々に知っていただくとともに、作品の魅力がより際立つようテーマごとにブースを設置し、本市の文化的魅力を広く発信しながら、今後の誘客に繋がることを目指しております。

コロナ禍の影響で空港の利用客数は回復しておりませんが、作品展については、利用客だけでなく空港スタッフからも好評を得ております。

そして、この作品展の取組みに注目した市内の民間施設や、県内の観光事業者からも展示依頼がありますので、今後、更に事業効果が拡大していくことを期待しております。

#### ○ 「コロナ収束と子どもたちの願いを託した祈願花火」について

にかほ市観光協会では、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症収束への思いを託した祈願花火を、8月7日に市内3地域で一斉に打ち上げました。

花火玉には、「早くコロナが収まってほしい」、「早く家族みんなと出かけたい」など、市内の小学6年生155人の願いが書かれた短冊が張り付けられました。

各地域での約 1,200 発の花火打ち上げは、約 15 分間という短い時間ではありましたが、市民の方々は思い思いに大玉や創作花火を楽しまれたようでした。

1 日も早く平穏な日常生活が取り戻され、そして来年には盛大に花火大会が開催されることを願っております。

### ○ 多目的屋内運動場について

6 月 1 日から一般向けに供用を開始した多目的屋内運動場については、8 月 19 日現在で延 10,400 人の方に利用いただいております。

施設ごとの内訳は、メインアリーナが約 3,000 人、キッズルームとなっているサブアリーナが約 6,250 人、研修室・会議室が約 850 人となっております。特にキッズルームは人気が高く、6 月の土・日曜日には 1 時間当たり 25 人まで入場制限をさせていただいた日もありました。

また、この施設のネーミングについて、市内の小学生に募集したところ、合わせて 152 作品の応募がありました。そして、4 小学校で 5 作品ずつ選定された 20 作品の中から、最優秀作品として「エスパーク★にかほ」が選ばれております。この作品は、「スポーツの S (エス)」と「公園のパーク」を合わせたもので、「いろいろな遊びとスポーツができる場所」、「みんなが集える場所」という思いが込められております。

このネーミングが皆さんに愛され、親しまれ、多くの方々が憩いの場として施設を利用されることを願っております。

### ○ ブラウブリッツ秋田との連携プロジェクトについて

今年度、新たに実施しているブラウブリッツ秋田との「健幸プロジェクト連携事業」として、6 月 26 日に秋田市で行われた J リーグ公式戦に合わせて「健康バスツアー」を実施しました。

10 代から 80 代までの 47 人の参加者からは、「スタジアムのピッチでの体操が良かった」、「バスの送迎がありがたい」、「また企画してほしい」などの感想のほか、事業の改善に向けた貴重なご意見もいただきました。

今後も、クラブ専属のトレーナーや管理栄養士を招いての健康教室や、IT 技術を活用した体調の測定、検診データの「見える化」の取組みなど、連携事業を通じて、市民の健康寿命の延伸と生活習慣病の予防を推進して参ります。

## ○ 東京 2020 大会ホストタウン交流について

オリンピック・リベリア選手団との交流については、感染症予防に配慮し、7月24日に多目的屋内運動場と東京都のオリンピック選手村をオンラインで結び、選手団激励会を行いました。本市からは約90人の市民が参加し、番楽やチアダンスなどで地域文化を発信し声援を送りました。

また、8月5日には同施設においてオンライン交流会を行い、市民や、ゆり支援学校の生徒が手づくりしたおみやげや、仁賀保高校生によるお互いの特産品を使ったスイーツなどを英語で紹介し、選手村へ届けております。

また、9月2日には、パラリンピック・リベリア選手団とのオンライン交流会を、東京都の選手村と仁賀保高校、ゆり支援学校、市内の小・中学校や福祉施設などを結んで行う予定としております。

今後も、本市とリベリアとの絵本交流に関わった生徒同士のオンライントーク交流や、スポーツ少年団員とリベリアの子どもたちとのオンラインスポーツ交流を計画しており、子どもたちが異国の文化に触れながら、多様性や共生社会について考える機会を提供していきたいと考えております。